

第98回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2014年7月16日(水) 13:30~15:30

2 場 所 関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館 第1特別会議室

3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答(13:30~14:30)

・馬場 英朗 商学部准教授

発表テーマ「行財政改革と非営利・社会セクターの資金循環」

・木下 光 環境都市工学部准教授

発表テーマ「クールルーフとしての瓦がつくるアジア蒸暑地域の住まいとまちなみ」

(2) 天六キャンパスの売却及び新たな土地・建物の購入について(14:30~)

(3) 学内状況説明・情報交換

① 地域文化・芸術資源可視化研究(通称VOLCANOプロジェクト)について 資料1

② 兵庫県養父市との連携協定締結について 資料2

③ 文部科学省平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
採択結果について 資料3

④ 平成26年度春学期卒業式および大学院学位記授与式、
秋学期入学式の挙行について 資料4

⑤ 夏休み小・中・高校生向けセミナーの開催について 資料5

⑥ DVD「飛鳥とともに」について 資料6

⑦ 平成26年度地方教育懇談会の開催について 資料7

⑧ 関大生の活躍について 資料8

⑨ 楠見学長の日本私立大学連盟副会長の就任について

4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、西村枝美学長補佐、
馬場英朗商学部准教授、木下光環境都市工学部准教授、
永田眞三郎常務理事、重田勝紀管財局長、与謝野有紀社会学部教授、
角谷賢二学長室シニア研究企画アドバイザー、宮田慎一教育後援会課長、
藤本清高総合企画室長、松並久典総合企画室次長、
中川雄弘広報課長、宮武明生学長課長 他

5 参考資料

(1) 関西大学通信 第434号

(2) 関西大学総合案内データ集2014

(3) 行事予定表(7月~9月)

以 上

【次回(第99回)記者懇談会開催予定】

日 時: 2014年9月17日(水) 15:00~17:00

場 所: 千里山キャンパス 100周年記念会館 第2会議室

行財政改革と非営利・社会セクターの資金循環

商学部准教授 馬場英朗

【概要】

厳しい財政状況のもとで、政府は「共助社会づくり」を提唱しており、公共サービスの新たな担い手として非営利組織や社会的企業に対する関心が高まっている。特に、福祉や環境、国際協力などの伝統的な活動分野から、市場創出や雇用拡大を目的とする成長戦略の一環として、ソーシャル・ビジネスの広がりが期待されている。

政府や一般市民からすると、ソーシャル・ビジネスという場合には、事業収入によって自律した財源を確保しながら、社会貢献や慈善活動も担ってくれる存在として、一石二鳥のイメージが持たれることも少なくない。しかし、現実には収益性の高い分野を営利企業が押さえている以上、イギリスのように寄付や補助金のみならず、行政からの事業委託、融資（休眠口座を活用したビッグ・ソサエティ・キャピタルなど）も含めた多様な資金源へのアクセスを整備しなければ、非営利組織や社会的企業が持続的に存立する財政基盤を確保することは難しい。そのため、世間的な関心が高まりつつあるのとは裏腹に、日本の現場団体では活動資金の著しい不足や、非正規・低賃金雇用に起因する人材難に悩まされ続けている。

日本でも公益団体への寄付を促進するために、平成 23 年に個人寄付への税額控除が導入されるなど、世界的に見ても革新的な寄付税制が導入されている。しかし、数十万団体に対して税制優遇が認められる米英と比較して、日本では寄付控除等の税制優遇が受けられる公益法人が 9,225 団体（公益認定等委員会だより第 32 号、6 月 30 日現在）、税額控除も受けられる認定 NPO 法人が 662 団体（内閣府 NPO ホームページ、5 月 31 日現在）にとどまっている。そして、補助金や事業委託、社会的投資などの財源を再構成して、非営利・社会セクターの資金調達を支援する仕組みも整備されていない。

公共サービスの担い手を民間に開放するために、公的資金の配分見直しを含めた公共サービス改革に取り組むイギリスの状況からすると、日本の行財政改革は行政機構を温存したまま、仕事のみを民間に下請けさせるという構図を否定できず、官製ワーキングプアの問題も指摘されている。ますます厳しくなる財政のもと、「ソーシャル」という美句に惑わされず、足腰の強い公共サービスの担い手を民間セクターに育成することが望まれており、そのためにはこれらの組織へと継続的に資金を循環させる仕組みが必要となっている。

【プロフィール】

1972 年愛知県生まれ。2013 年 4 月より関西大学商学部准教授。専門は公会計、非営利会計。名古屋大学経済学部卒業、大阪大学博士（国際公共政策）。公認会計士として監査法人で勤務していた時に、ボランティアで NPO の会計支援に関わる。著書に『これ 1 冊で実務に対応できる基礎からわかる NPO 会計』、『非営利組織のソーシャル・アカウンティング』（日本 NPO 学会林雄二郎賞）。公益財団法人ひょうごコミュニティ財団監事。

クールルーフとしての瓦がつくるアジア蒸暑地域の住まいとまちなみ

環境都市工学部建築学科准教授 木下光

【概要】

0. 研究のテーマと枠組み

- 1) 公共空間のデザインとマネジメント：アジアの公設市場・ストリートマーケット／人工地盤・公園
- 2) 高密度居住と都市形態：敷地計画と住環境形成の手法
- 3) 素材と産業から再構築する風景と住まい：瓦（土を焼成した素材）＜1～3＞
- 4) 国際交流と地域貢献：ワークショップ／水都大阪／スーゾグラー美術館（沖縄県大城）

1. 伝統的なまちなみをつくる瓦屋根と瓦をめぐる諸問題

元来、地域固有の粘土と薪を用いた達磨窯焼成によって、形状・風合いの異なる瓦が唯一無二の風景をつくってきた。しかし、それは現代のつくり方とは異なり、瓦の産地も収斂され、差異性よりも均質性が高まっている。瓦は日本建築の代表的建材であり続けられるだろうか。伝統的瓦屋根のまちなみを守るために何が必要だろうか。

- 1) 長野県小布施堂界隈：ヤマキクバゴケが生える地域固有の瓦・古瓦の収集
- 2) 福岡県八女市福島地区（重伝建地区）：瓦と漆喰と職人がつくる屋並みと制度／下地と通気層

2. 瓦の環境性能を再評価する～クールルーフの工夫

瓦は伝統的景観を守る文化という従来の視点に加えて、持続可能性やエネルギー問題から環境性能評価という視点が必要である。アジアの蒸暑地域という風土の中で、瓦の形状や下地のつくり方は地域固有であるが、共通しているのは如何に多孔性のある屋根＝大樹の木陰をつくる伝統的技術である。

1) 伝統的な瓦屋根建築に学ぶ：

- ・沖縄・中村家住宅：男瓦と女瓦による琉球赤瓦による本瓦葺きと琉球竹の下地
- ・ベトナム・ハノイ：うるこ瓦による伝統的屋根とフランス由来の平板瓦
- ・スリランカ：積層する丸瓦とジェフリー・バワのディテール

2) 瓦の環境性能を測る：瓦という素材の可能性

- ・手づくり瓦（有空土練+だるま窯）の再現：今日の瓦（真空土練機+ガス窯）との差異
- ・手づくり瓦の実践：奥原崇典氏（沖縄）・五十嵐清氏（福岡）
- ・瓦の多孔性：細孔径・比表面積・細孔容量／熱伝導率+吸水率（吸水速度も含む）

手づくりゆえに有空かつ焼成温度が低いことから生まれる多孔性を現代の採算性で再興することの難しさがある。文化財の瓦屋根の保存においては、技術の伝承の観点から手づくり瓦を奨励すべきだと考える。しかし、現代の多くの建築で用いられる瓦において、手づくり瓦が有する物性をどのように、現代のつくり方で再構築するかが課題である。

3. 瓦の魅力を伝える～沖縄・中村家住宅での試み

- 1) 本をつくる：「中村家住宅のひみつ～琉球赤瓦の屋根に学ぶ～」／学術的知見を易しくわかりやすく
- 2) 文化財を博物館にする：QRコードミュージアム／低予算・多言語で紹介・新しい公共事業のかたち
- 3) かまど再生と宿泊体験：瓦屋根の建築の良さを体感する・かまど（火）の重要性

4. 国際交流と地域貢献：ワークショップ

2014年、シンガポール日本国大使館・ジャパングリエイティブセンター、三菱地所設計・日建設計・NTTファシリティーズ、シンガポール国立大学・京都工芸繊維大学・関西大学などが協同し、「シンガポールと日本へ、次世代都市住宅の提案」というテーマで、国際ワークショップとインターンシップを東京・京都（7月）とシンガポール（8月）でそれぞれ一ヶ月行う。学生は、伝統的な住まいの原点として京都の町家とシンガポールのショップハウスを学ぶ。そして、その成果をシンガポールのジャパングリエイティブセンターで展覧会・シンポジウム（9月中旬から10月上旬）を行う予定である。

【プロフィール】

1968年福岡県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科准教授。専門は都市計画・都市デザイン。京都大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程中退。

1996年関西大学工学部建築学科助手、2000年関西大学工学部建築学科専任講師、2005年関西大学工学部建築学科助教授を経て、2007年より現職。共著に「建築MAP京都」（TOTO版）、「建築MAP大阪／神戸」（TOTO版）、「アジア建築研究」（INAX出版）、「キーワード100」（住まいの図書館出版局）、「アジア都市・建築史」（昭和堂）、「中村家住宅のひみつ～琉球赤瓦の屋根に学ぶ～」（遊文舎）など。日本建築学会論文奨励賞（2005）、ダイキンエアスタイル優秀賞「彦根の家」（2009）日本建築学会技術部門設計競技佳作入選（2009）沖縄の新たな発展につなげる大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ入選（2013）など。モノ×ヒト=コトをコンセプトとして、クールルーフ（涼しい魅力的な屋根）・ルーフスケープ（風景としての家並）としての瓦（Clay Tile）の再構築に関する研究・開発の他、開かれた公共空間のデザインや管理運営、アジアの公設市場とストリートマーケット、都市住宅における敷地計画・住環境形成の手法に関する研究を行っている。